

ホーム > willbe Interview > 浅野史郎さん（神奈川大学特別招聘教授） > 障害者が普通に暮らせる街づくりを。3/3

障害者が普通に暮らせる街づくりを。 3/3

浅野史郎さん（神奈川大学特別招聘教授）



vol.3 障害者が街に慣れる、街が障害者に慣れる

残間 その後、浅野さんは宮城県知事を3期やり、都知事選にも出て、大病もしたりと、まあいろいろあったわけですが、少し現在の話をしましょうか。
浅野さんは今の日本をどう見えていますか？

浅野 安倍政権、おかしいですね。
それなりに私も発言しているんですが、発言したって何も変わらない。今、知事でもしていれば別でしょうが。

残間 みんな、おかしい、おかしいと言いながら、それからこんな事が続くはずがないと言いながら、ずっと来っちゃってますよね。

浅野 これは民主主義の危機です。多くの人がおかしいと言いながら、それもよく物事を考えている人がおかしいと言っているのに、意見が通らない。
安倍政権は、別に制度上は、とんでもないことをやってるわけではないです。民意は無視してるかもしれませんが、法律を無視してるわけではない。
特定秘密保護法案にしても、集团的自衛権の行使の問題にしても、一応は正当な段取りを踏んでいます。
でもこれは、方向としては民主主義の破壊につながっています。おかしいですよ。

残間 ならば再びというわけには行きませんか。

浅野 と行きたいところですが、そこは病気が言い訳になっていますね。だって、まだ無理できませんもの。中途半端にはやれないことですから。



過去のインタビュー

- ▶ 大宅映子さん（評論家）
- ▶ 井関利明さん（慶應義塾大学名誉教授）
- ▶ 月尾嘉男さん（東京大学名誉教授）
- ▶ 福田ふくさん（食の旅人／元祖お取り寄せの達人）
- ▶ 石坂茂さん（株式会社IBJ代表取締役社長）
- ▶ 安藤和津さん（エッセイスト）
- ▶ 大垣尚司さん（立命館大学教授／一般社団法人 移住・住みかえ支援機構 代表理事）
- ▶ 吉田和正さん（インテル株式会社代表取締役社長）
- ▶ 太田裕美さん（歌手）
- ▶ 岡康道さん（クリエイティブディレクター）
- ▶ 竹中ナミさん（プロップ・ステーション理事長）
- ▶ 安藤優子さん（キャスター）
- ▶ 宮城俊作さん（ランドスケープ・アーキテクト）
- ▶ 土屋京子さん（翻訳家）
- ▶ 土井善晴さん（料理研究家）
- ▶ 関川夏央さん（作家）
- ▶ 三屋裕子さん（スポーツプロデューサー）・クミコさん（歌手）
- ▶ 内山真さん（精神科医／日本大学医学部教授）
- ▶ 田川啓二さん（ビーズ刺繍デザイナー）
- ▶ 月尾嘉男さん（東京大学名誉教授）
- ▶ 大石久和さん（京都大学大学院 経営管理研究部特命教授）
- ▶ 松永真理さん（編集者）
- ▶ 小黒一三さん（月刊「ソトコト」編集長）・隈研吾さん（建築家）・福岡伸一さん（生物学者）
- ▶ 戸張捷さん（ゴルフプロデューサー）
- ▶ 坂村健さん（東京大学大学院教授）・大石静さん（脚本家）
- ▶ 柴俊夫さん（俳優）
- ▶ 波頭亮さん（経済評論家）
- ▶ 山田昌弘さん（中央大学教授）
- ▶ 光安久美子さん（スマイル・オブ・ザ・チルドレン代表）
- ▶ 三枝成彰さん（作曲家）
- ▶ 天野祐吉さん（コラムニスト）
- ▶ クミコさん（歌手）
- ▶ 櫻井よしこさん（ジャーナリスト）
- ▶ 北村明子さん（演劇プロデューサー）
- ▶ 奥田瑛二さん（映画監督／俳優）・吉永みち子さん（作家）

残間 やっぱりそうですか…………。

浅野 はっきり言って、退院してからの方が身体としてはつらかったですね。

残間 免疫力が落ちて、いろんな病気をしてみたいですね。

浅野 中でも辛かったのが膀胱炎。あれはすごく痛いんですよ。
お医者さんに言っても「膀胱炎で人は死なないから」という調子なんですけど、この痛みが止まるのなら、窓からでも飛び降りたいというくらい痛かった。
本当に言い訳なんですけどね。

民主党はまるでダメだったですけど、私は次の選挙では民主党に入れますよ。ダメだけど。ダメだけど、頑張ってもらわないとしょうがない。

ただ政治とは別ですが、私も口だけではなく、行動は起こしています。

私はずっと講演などで、「障害福祉は私のライフワークです」と公言していましたが、考えてみれば、障害福祉課長の後、具体的に何をやっただろうかと思いついたんですね。

それでささやかではありますが、行動を開始しました。
ちょっと前から「ぶれジョブ藤沢」というのをやっています。

残間 ぶれジョブ？

浅野 ぶれジョブというのは、倉敷の特別支援学校の先生で西幸代さんという人が始めたものです。実はその西さんが、私が慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパスで教えていた頃に訪ねてきたんです。
私はあちこちで「障害福祉では、“非専門家”を育てることが重要だ」と書いたり言ったりしてきたんですが、彼女は「ぶれジョブ」は、まさにこれなんですって言うんです。

何をやるかという、小学5年生から高校3年生までの知的障害と発達障害のある子。そういう子が地域の中の事業所、スーパーマーケットだとか、いろんな商店や会社がありますよね、

残間 そこで働ける？

浅野 いえ、働くというのとは、ちょっと違って、お仕事をすることですね。
障害者は週に1時間だけ、そこでお仕事をするのですが、ジョブサポーターという人がいて、その辺のオジサン、オバサンなんですけど、まさに“非専門家”ですね？ この人たちがサポートするわけです。でもサポートと言っても見守りだけ。できるだけ口も手も出さない。

残間 それは藤沢だけでやってるんですか？

浅野 全国で30ぐらいの街でやっていますが、私が代表をやっているのは神奈川県藤沢市。

残間 いつからやっているんですか？

浅野 一昨年の7月からです。わずか2年ですけど、これまで15くら

- ▶ ジョージ渡部さん（サルサ・ホットライン・ジャパン代表）
- ▶ 藤田一照さん(曹洞宗僧侶)
- ▶ 三田誠広さん（作家）
- ▶ 加藤和彦さん(作曲家)
- ▶ 栗原はるみさん（料理家）



いのチームを作りました。数としては、全国でもかなり上の方
だと思いますよ。

毎月の定例会で、参加している障害のある子どもと話をするん
ですね。「先月は何をやりましたか？」と。
すると「ラーメン屋さんでワンタンの中味を詰めました」とか
答えてくれます。こんなにスムーズには話せませんけど。
ジョブサポーターの人にも様子を聞くと「これこれ、こんなこ
とがありました」と解説してくれるわけです。
事業所の人からも「職場の人気者ですよ」とか、情報が入って
来る。

この活動の趣旨は何かというと、障害のある子供って、家と養
護学校の往復しか知らないんですね。地域のことをほとんど知
らない。遊ぶ相手もないし。
それを週に一時間だけでもスーパーでお仕事をすれば、職場の
人がいるし、お客さんもその姿を見ます。それだけでもいいん
です。今までは、地域の人たちはほとんど目にすることがなか
ったのですから。だから、これは就労支援じゃないんです。障
がいのある子が地域に慣れる、そして地域が障がいの子に慣れ
るという活動です。

残間 障害のある子を地域に溶け込ませるというか、当たり前の光景
にするわけですね。まさに“非専門家”の育成。

浅野 その手段として地域の事業所に協力してもらう。サポーターに
なってもらうんです。
就労支援じゃないので、作業は仕事ではなく“お仕事”と呼んで
います。

残間 その感じわかります。逆にプロの人が自分の仕事を“お仕事”と
呼ぶと、私は怒るんですが。

浅野 一昨年の7月に始めて、8月には利用者第一号が決まりました。
内海隼吾君というダウン症の子で、すごく嬉しいことがあった
んです。
プリント工場に通うことになったんですが、そこに行くには電
車に乗って、駅でバスに乗り換えるんですね。その時のジョブ
サポーターが林君という、当時の私のゼミ生でした。
本当はゼミ生というのは反則で、地域の人じゃないといけない
んですが、始めたばかりでジョブサポーターのなり手が誰もい
なかったものですから。

それで2～3回林君と一緒にプリント工場まで通ったんです
が、「隼吾君、ひとりでやれるか？」と聞くと、やれると言っ
たんですね。それでやらせてみたら、ものの見事に乗るバスを間
違えた。

隼吾君がバスの中でオロオロしてたら、まず運転手さんが気が
つきました。次の停留所で、降りてもらおうとしていたら、ひ
とりのお客さんが、私も次で降りますので、電話してみましょ
うと言ってくれたんです。それでプリント工場から迎えに来て
くれました。

このエピソードを聞いて、私はとっても嬉しくてね。まさにこ
れだと！
地域の中の隼吾君の存在、そしてバス会社の運転手さん、一緒
に降りてくれたお客さん。

残間 みんな地域の人ですよ。



浅野 このプロジェクトは、そういうことが起こりうるんですよ。ノーマリゼーションとか難しい言葉がありますが、私はこれを「街に慣れる、街が慣れる」という言い方をしています。つまり、「街に障害者が慣れると、街が障害者に慣れる」。まあ、こういうことを細々とですが、やっています。やりがいがありますし、面白いですよ。

残間 確かに面白い試みですね。また、そういう障害のある方を気遣える世の中って、素敵だと思います。

浅野 それで「ぶれジョブ」のいいところは、一切、お金が絡まないことです。障害者も事業所もジョブサポーターも、我々事務局もお金を出さなくて済みます。とてもハードルの低いプロジェクトなんです。ただし、協力してくれる事業所はあるんですが、なかなかジョブサポーターのなり手が見つかりません。本当に見守るだけなんですけどね。求人広告に出すわけにもいかないんで、告知も難しいんですが。

残間 神奈川だったらずいぶんウィルビーのメンバーもいますよ。

浅野 東京でもやってます。興味のある方は一度定例会に参加するといいと思います。

残間 何だか浅野さんが頑張ってるのを聞いて、すごく嬉しくなりました。本当に快復したんだなあと。

今日はありがとうございました。

浅野 こちらこそ、ありがとうございました。
(終り2014年6月)



[vol.1 障害福祉の問題は社会全体につながっている](#)

↑

[vol.2 障害福祉課長時代の珠玉の1年9ヶ月](#)

↑

[vol.3 障害者が街に慣れる、そして街が障害者に慣れる](#)